

▼円山動物園「こども動物園」の魅力UPプロジェクト

「モルモットが快適に過せる空間デザインコンペ 第2弾」表彰式紹介

2024年12月22日(日)14:00より、札幌市円山動物園内の動物園センター 情報ホールにて、「モルモットが快適に過せる空間デザインコンペ第2弾 表彰式」を開催いたしました。

コンペにご応募くださいました皆さま、誠にありがとうございました。

また、このたびのコンペ開催にあたりまして、ご理解、ご協力を賜りました関係各機関の皆さまにもこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

会場には受賞者の方々はもちろん、ご家族やご友人の皆さま、柴田千賀子園長をはじめとする札幌市円山動物園関係者の皆さま、審査を担当された日本建築家協会北海道支部長 小西彦仁様と北海学園大学 工学部建築学科 教授 岡本浩一様ほか、年末のご多忙の中にもかかわらず多くの方々がお集まりくださいました。



北海道建築士会札幌支部 針ヶ谷支部長

和やかな雰囲気の中、(一社)北海道建築士会 札幌支部長 針ヶ谷拓己様の開式の言葉で表彰式はスタートいたしました。

「受賞者の皆さま、良い作品を本当にありがとうございます。来年以降、設計プロジェクトを立ち上げて実現できるかどうかの検討も含めて進めていきたいと思えます。受賞した皆さまには、このデザインコンペで受賞したということ自信にして、それを糧にぜひ今後活躍させていただきたいと願っております。」

また、針ヶ谷支部長からは、最優秀賞が2作品となったことについての説明もありました。

「審査の中で色々な課題があったのですが、モルモットが自然の中に居るのがわかるということ、そして、例えばカラスなどから襲われないように建物があるということの2つがとても大事なことでした。外側はかまくらで、中は岩場で…と2つの作品を合わせることで、より実現性の高いデザインになるという判断の結果、今回、あえて優秀賞は1つではなく2つを組み合わせ、『最優秀賞』ということにさせていただきました。」

(→最終審査の様子は[こちら](#))

続いて、司会進行役の札幌市円山動物園 モルモット担当飼育員 飯島なつみ様から各賞の発表が行われました。

受賞者様には表彰状と賞金が授与されます。

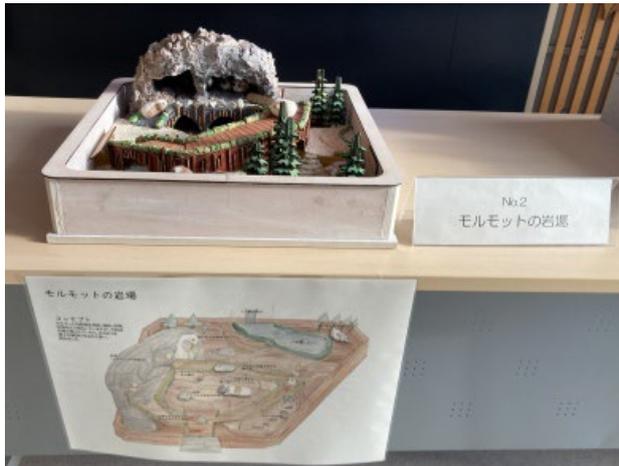
遠方からのご参加となる受賞者様とは Zoom でお繋ぎして、画面上でのやり取りによる形で授与が行われました。



札幌市円山動物園
モルモット担当飼育員 飯島様

★最優秀賞・円山動物園賞

受賞者：酒井 歩夢 様、 作品名：エントリーNo.2 「モルモットの岩場」



★最優秀賞・北海道建築士会賞

受賞者：内田 大蔵 様、井口 蒼真 様、 作品名：エントリーNo.15 「モルモットとあそぼう！」



★来園者賞

受賞者：竹内 歩乃実 様、 作品名：エントリーNo.5 「モルモットたちの大冒険！」



受賞された皆さま全員に表彰状と賞金が授与された後、札幌市円山動物園 柴田千賀子園長よりご挨拶を頂戴しました。

「受賞された皆さま、本当におめでとうございます。

私ども動物飼育士に配慮した飼育、そして展示においては来園者の皆さまがモルモットの魅力を存分に感じていただけるようにということで、このコンペに参加をいただいた皆さま本当にありがとうございます。皆さまのアイデアをもとに実際の設計に入っていきたいと思っておりますので、北海道建築士会の皆さまにおかれましては、これからもご指導、ご協力をお願いいたします。

そして、このコンペには多くの皆さまの参加をいただきました。

モルモットの飼育環境にとっても関心を寄せていただいて、動物園のこの企画に参加をいただいたことにこの場をお借りして感謝いたします。」



札幌市円山動物園
柴田園長



日本建築家協会
北海道支部 小西支部長

続いて、審査を担当された日本建築家協会 北海道支部 支部長 小西彦仁様と北海学園大学 工学部建築学科 教授 岡本浩一様より、ご講評を頂戴しました。

(※講評の全文は[こちら](#)に掲載しております)

以上をもちまして表彰式は終了となりましたが、審査員の皆さまは、受賞者の方々が手がけた模型を前にして興味津々のご様子です。



北海学園大学
工学部建築学科 岡本教授

「どんな素材を使用して模型を作成されたのだろうか？」

「実現する場合にはどんな材料を使用することを想定されたのだろうか？」

ほんの一部ですが、受賞者と審査員との質疑応答の様子をご紹介します。



★『モルモットの岩場』酒井 歩夢 様より

実現可能であるものということ、モルモットが過ごす場所となるため自然なものであることを意識してデザインしました。

陶芸をやっており、焼き物をハンマーで小さく砕いて石膏の上で固めて着色することにより岩場を表現しました。

(審査員の皆さまより)

- ・岩場であることがわかりやすく表現されています。
- ・モルモットを中心にした、より「自然」に近いデザインだと思います。
- ・カラスなどの外敵からモルモットを守る囲いがあると、より良いですね。

★『モルモットとあそぼう！』内田 大蔵 様、井口 蒼真 様より

アイデア出しは一緒に行いました。(※外側は内田さん、内側は井口さんがデザイン)

実現する場合の外側の材料はコンクリートを想定しました。

(審査員の皆さまより)

- ・精度が高く、良い作品だと思います。
- ・審査ではモルモット中心か？人間中心か？の議論が行われました。
- ・人間がモルモットを見やすいデザインですと、モルモットにとっては快適に過せる空間としての「自然さ」が無くストレスがかかるのではないかという話に…。
- ・最優秀賞を選ぶ場面では非常に頭を悩ませました。



★『モルモットの大冒険！』竹村 歩乃実 様より

アヒルのプールを再利用するということでしたので、その元の形をできるだけ生かしながら、モルモットが自然の環境で暮らせる、過ごせる空間になるように工夫しました。

(審査員の皆さまより)

- ・とても格好の良いデザインだと思います。
- ・上部にガラスは無く風が通ることで、内部が暑くならない工夫がされています。
- ・ガラスで覆うことにより、カラスなどの天敵に襲われないように工夫されたことがよくわかります。



酒井さんも竹村さんもデザイン考案の参考に…と、実際にアヒルのプールやモルモットを観察するために園内の「こども動物園」に何度も足を運んでくださったそうです。

また、道外からご参加の内田さん・井口さんチームも、井口さんが夏休みを利用して来園し、アヒルのプールやモルモットの様子を撮影。持ち帰ったたくさんの写真を参考にデザインを考案されたそうです。

こうして、たくさんの笑顔と共に表彰式は無事に幕を閉じました。

受章された皆さま、本当におめでとうございます！

当デザインコンペへご参加いただき誠にありがとうございました。

また、お忙しい中、表彰式にご出席いただきました皆さまに心より御礼申し上げます。

北海道建築士会札幌支部では、今後も「こども動物園」の更なる魅力 UP に取り組んでまいります。

来年度は、最優秀賞に輝いたデザインを実現すべく設計プロジェクトを立ち上げワークショップなどを開催して、受賞された方々と共に検討を進めていく予定です。

どうぞご期待ください！

◆ モルモットが快適に過せる空間デザインコンペ第2弾 ◆

*** アヒルのプールを再利用したモルモットの展示場コンペ ***

★最優秀賞・円山動物園賞

『モルモットの岩場』 酒井 歩夢 様（北海道芸術デザイン専門学校）

★最優秀賞・北海道建築士会賞

『モルモットとあそぼう！』 内田 大蔵 様、井口 蒼真 様（京都工芸繊維大学）

★来園者賞

『モルモットたちの大冒険！』 竹内 歩乃実 様（北海学園大学）

【審査員の皆さま】

■札幌市円山動物園

園長 柴田千賀子様 ※審査委員長

モルモット担当飼育員の皆様

札幌市環境局 参与 小菅正夫様（元旭山動物園園長）

■北海道武蔵女子大学

経営学部 教授 若林尚樹様

■北海学園大学

工学部建築学科 教授 岡本浩一様

■日本建築家協会 北海道支部

支部長 小西彦仁様

■北海道建築士会 札幌支部

支部長 針ヶ谷拓己様

◆ 講評 ◆

★日本建築家協会 北海道支部長 小西 彦仁 様

受賞者の皆さん、おめでとうございます。

審査は非常に難航しましたが、どの作品も一生懸命に作っていただき、本当に良いコンペだったと思います。

昨年も審査を担当させていただきました。

優秀賞の作品は、すでにモルモットの飼育舎の中に設置されています。

先日、モルモットがその住処をちゃんと使ってくれているのを拝見して、ああ選んで良かったなと思いました。モルモットの気持ちにならないと作品をなかなか選べないんです。

今回、非常に良い作品が揃いました。冒頭の挨拶で針ヶ谷支部長が仰いましたように、自然により近い「モルモットの岩場」が良いという意見と、「モルモットと遊ぼう！」も良いという意見が出ました。

「モルモットの岩場」は、カラスなどの外敵に襲われる可能性があるという懸念がありました。

また、「モルモットと遊ぼう！」は、釜のデザインは非常に素敵ですが、モルモットを遊ばせる台がモルモットのストレスになるかもしれないという意見がありました。2つの作品は少しずつ物足りなかったんです。それでは、2つの作品を組み合わせようということになりました。

「モルモットの大冒険！」も非常に良い案ではありますが、カバーのドーム形状をどう成立させるかという構造的な話が出て、建築の実現性という点の話もありました。このようにして賞が選ばれていったという経過です。

いずれの作品も、非常に時間をかけて考えていただいているということは見えてわかりますし、非常に少ない予算でこんなに作り込んだ模型を作っていただき、本当に嬉しく思います。

これを今度は、建築士会の皆さんで作ることになります。どう作るかは乞うご期待ですが、建築家協会もお手伝いできることがあれば…と思っています。

学生さんたちがいらっしゃいますので、建築士会は何の会？というお話をいたします。

1級建築士、2級建築士、木造建築士という建築士の免許があります。その方たちの集まりが建築士会。簡単に言うとそういう会です。非常に大きな団体です。建築家協会って何でしょう？と言いますと、その中でさらに1級建築士をもった人しか入れない会でありまして、建築士会の10分の1くらいの団体です。



建築家はみんなこういうことをやりながら育ってきている、ここにいる建築の関係者の皆さんも、こういうことをしながら頑張ってきました。まだまだこういうものに興味もありますし、実は私も参加したいくらいなのですが参加できない立場なので…。受賞された皆さんには、本当に頑張られた尽力に対しておめでとうとお伝えしたいということで締めさせていただきますと思います。

本日はおめでとうございます。ありがとうございます。

★北海学園大学 工学部建築学科 教授 岡本 浩一 様

受章された皆さま、本当におめでとうございます。

今回初めてこのコンペの審査を担当することになり、実際どんな感じか全く想像もつかなかったのですが、出展された皆さん、本当に楽しい作品をたくさんお送りいただきました。その中から選考して受賞の全体のプロセスに入っていくわけですが、どの作品からも、モルモットへの愛情をしっかりと考えてくれている様子や、どのようにしたら展示を見る人がモルモットに近づけるかなというところを一生懸命考えてくださっている様子が伝わってきて、それぞれの個性の中で空間をデザインすることに対して前向きに真摯に取り組んでいただいた作品が多いと感じました。

最初、審査を依頼されたときには凄く不安と言いますか、何をどう審査して良いものかわからなかったのですが、皆さんの気持ちが作品から凄く伝わってきましたので、審査をするときも楽しく過ごすことができました。



今後、作品が形になっていく段階になります。どういう風に思いをさらに形にしていくのかというところを大人たちと相談しながら進めていくことになるとと思いますが、この経験をぜひ生かして、今後に繋がっていったらいいと思います。皆さんが作られた空間が実現すると、こども動物園はさらに人気になって来園者も増えるのではないかなと思っており、凄く期待しています。

引き続き努力を続けて、良い空間の実現に貢献していただければ良いなと思います。

以上です。

おめでとうございます。 ([→3ページ目へ戻る](#))

◆ 最終審査の様相 ◆

2024年12月4日(水) 札幌市円山動物園 会議室にて



建設予定場所の現状を確認



展示室でモルモットの動きを観察 ([→タイトルへ戻る](#))